

随想

## 新潟より

権平 栄

生協活動の一つですが、私の住んでいる小針地区では、昨年から、夏休みに、子どもも一緒に加わって「平和を考える会」を開いています。昨年は、原爆についての人形劇「おこり地蔵」の上映と、被爆者の方のお話を聞きました。小さな子どもは勿論大人の私達も戦争を知らない世代です。戦争の恐ろしさ、いま平和であることの幸せを感じた一日でした。おこり地蔵は、小さな女の子が一人で留守番をしている時原爆に合い、“おかあさん、おかあさん”と泣きながら死んでいくお話です。当時、2歳と4歳の娘達は、見終わってから泣いていました。一年以上たった今でも二人ともおこり地蔵の話は覚えているようです。そして今年は、「かわいそうなゾウ」－上野動物園で戦争のために死んでいった象の物語－の紙芝居と、70歳台の主婦の戦争体験談を聞きました。ほかにスイトンの試食もあり小さい子連れのお母さん達で会場はいっぱいの盛況でした。戦争の話は恐ろしい、聞きたくない見たくない、避けて通ってきたのですが、事実をきちんと知った上で戦争のない人類世界にするために、子ども達に戦争の恐ろしさは伝えていかなければならないと感じています。

この会がきっかけとなり新潟被爆者の会で出版した「鳩」、「女達の数え歌－奄美の原爆乙女－」上坂冬子著、「私のシベリヤ物語」澤地久枝著、「ヨルダン難民救援への旅」小山内美江子著等を読みました。子共達には、「ベトちゃんドクちゃんからの手紙」松谷みよ子著を読んでやりました。小学生向けだったので、少し難しいかなと思ったのですが、長女は、いろいろ質問しながら一生懸命聞いていました。これからも、私自身、平和について考えていきたいし、平和に関する会も開いていきたいと思っています。

(元新潟大学細菌学講座研究生)